手の病気・けがの専門外科

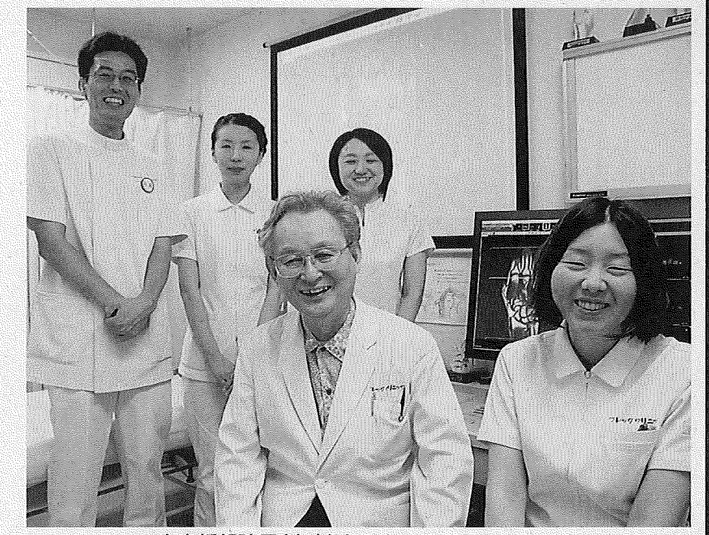
指先に小さなけがをして、仕事や家事に支障をきたしたり不便に感じたことはありませんか。繊細な作業を日々こなす人間の「手」には特有の病気やけががあり、これらを専門に扱う「手の外科」という分野もある。フレッククリニック（高知市高須新町4）の手外科専門医、貞廣哲郎院長（67）に病気の症状や治療法を聞いた。

【聞き手、毎日新聞高知支局長・藤田幸司】

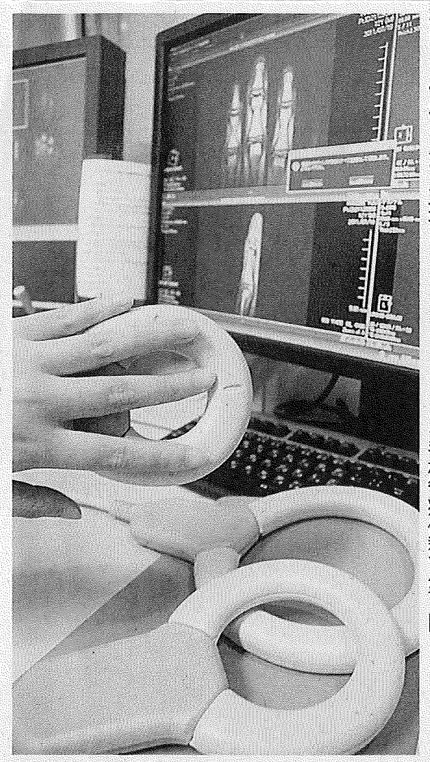
しびれや痛み 受診のサイン

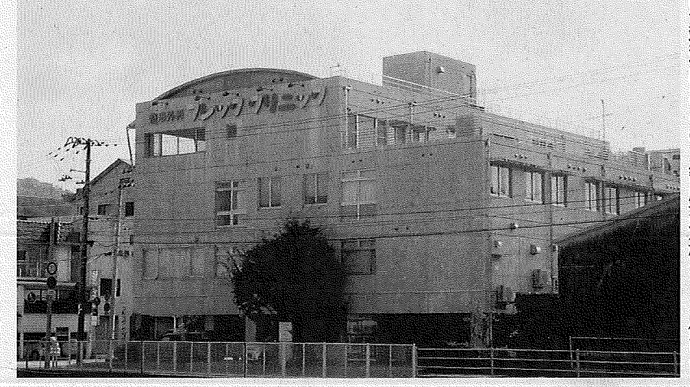
ストレッチで柔軟性保とう

加齢や酷使で発症



貞廣哲郎院長（中央）とスタッフ
＝写真はいずれもフレッククリニックで





上円形コイル（手前）に指を置いてＭＲＩを受けると指先の細密な画像（後方）が撮影できる
下手の外科を専門とするフレッククリニック

——手の専門医とはどんなお医者さんですか？

◆爪が割れたり、けがをして指先に絆創膏を貼るだけで、日ごろ簡単にできる作業がやりにくかったりしますよね。人間は、二足歩行により自由になった手を使うことで脳を発達させ、知性を獲得し、文明を築いてきました。体の中で最も緻密で鋭敏な感覚を持つ手を使い、思いのままに作業することは、人間が人間である証しといえるでしょう。ところが、毎日たくさん作業する分、手のトラブルも多いのです。

手首から先は27個もの小さな骨があり、細い神経や血管、筋肉や腱などが複雑に絡み合っています。指の関節は、サイズは小さいものの、構造的には膝や股関節とほぼ同じ。それぞれのパーツが小さく繊細なため、手の医療は高度な専門性が求められます。治療にあたるのは、日本手外科学会の整形外科もしくは形成外科専門医。肩から先の上肢全般、その中でも特に手首から先の「手」を中心に治療し、生活に不便がないよう回復させることを目指します。

——外科の分野なら傷や骨折を診ることが多いんでしょうね。

◆昔はそうでした。戦争があった時代、ものづくりの主流が手作業だった時代は、大きな傷、指や手の切断、骨折の治療がほとんどでした。工場や建設作業などでけがをする労働災害は機械化や安全管理が進んで減りました。近年は神経が圧迫されたり、関節の変形で起きるしびれや痛みなど慢性的な症状の治療が主になってきました。これらは加齢や長年の酷使などによって起きます。手の疾患は大まかに分けると▽外傷▽病気▽老化に伴うもの▽腫瘍——などです。

——しびれや痛みの出る慢性的な病気とはどんなものでしょうか？

◆じん帯によって神経が圧迫されて人さし指や中指がしびれたり親指の付け根の筋肉がやせてくる手根管症候群▽第1関節が腫れて痛むヘバーデン結節▽指の腱鞘炎の一種、ばね指（弾発指）▽親指の付け根で起こるドケルバン病（狭窄性腱鞘炎）などです。手の使いすぎということもありますが、これらは更年期の女性に多いのが特徴で、女性ホルモンが関係しているのではないかと考えられています。

——自覚症状はあるのでしょうか？

◆痛みやしびれは徐々にくるので、なかなか医者にかかる決心がつかない患者さんが多いようですね。サインは▽筋肉の状態が左右で違う▽触った感覚が鈍い▽食器をよく落とす▽手を振ったら楽になり、気づかぬうちに手を振る▽起床時のこわばり▽指でOKサインを上手にできなくなるなど。「年だから」と安易に考えず、専門医に診せてください。

——どんな検査がありますか？

◆骨や関節の障害、筋肉や腱の炎症、神経伝達は正常か、血管や皮膚に異常はないかなどを調べます。当院の場合は、医師、看護師、放射線技師、検査技師、理学療法士ら医療スタッフがチームを組み、時間をかけて問診、触診、検査を進めます。検査にはレントゲン撮影、MRI（磁気共鳴画像化装置）、筋電計、超音波検査（エコー）、骨密度測定機などを使います。手術後は理学療法士が作成したメニューに従ってリハビリを行います。若い人ほど回復は早いですが、年齢が高くてもトレーニングで以前よりはずっと良くなります。骨粗鬆症の場合は骨折してもあまり痛くないことがあり、骨がずれてつくことで神経が圧迫され、後に手根管症候群が出ることもあります。

——スポーツのけがもありますよ。

◆マレット変形（槌指）は、ボールが指先に当たって起きる突き指の一種です。指を伸ばす腱が切れたり、腱がついた骨が折れることで、第1関節が曲がったまま伸びなくなります。装具を使って固定するか、ピンを打ち込んで固定する手術で治します。成長期にボールを投げすぎることで起きる野球肘は、投球数制限で随分減りました。テニス肘は安静時は痛みはありませんが、手を強く握ってタオルを絞るような動作をすると痛みが出ます。テニス愛好者以外の患者も多く、原因はよく分かっていません。湿布や外用薬を使い、リハビリを基本に注射やテニス肘用バンドの装着で治療しますが、治らないときは手術します。

——けがはどんな治療をしますか？

◆けがで血管や神経、腱が切れた場合は、顕微鏡をのぞきながら縫い合わせます。切断された指の接合も行います。細かくて難しい手術です。スポーツや事故の際に手首を曲げた状態で手をつくと、手首の親指側にある舟状骨が折れることがあります。この骨は血行が悪く、捻挫と思って放置すると、骨折部がつかないまま偽関節になることがあります。手首に力が入らなくなったり、痛みが続き、手術が必要になります。

筋電計で神経の働きを測定

シリーズ
地域医療を考える

地域医療の発展を願っています
企画・制作／マイコー四国